



同友しずおか



私の逸品

地元の「食材」に地域活性の思いを込めて

すけるくどりーむ(株)

詳細は WEB で!

(榛原支部)

静岡同友会

検索



特集

第48回中小企業問題全国研究集会 in 兵庫

地域再生の担い手として、時代を創る「地域企業」への変革を

会員訪問記

横山 賢三氏 (有)三和化学・榛原支部
江間 省豪氏 江間企画・浜松支部

その他 主な内容

中同協社員教育委員会、連合静岡との懇談会、支部だより
新会員紹介、同友会大学、口座振替のお知らせ

平成29年度 重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営を実践する同友会型企業を増やします。
- ② 中小企業振興基本条例運動を推進し、政策実現が行える組織づくり、地域づくりをめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

地域再生の担い手として、時代を創る『地域企業』への変革を

～第48回中小企業問題全国研究集会in兵庫に静岡から29名が参加～

2月8日(木)～9日(金) 神戸ポートピアホテル 他

第48回中小企業問題全国研究集会in兵庫（以下、全研）が神戸ポートピアホテルを主会場に開催され、来賓を含め全国各地から2,054名、静岡同友会からは29名が参加しました。



金井 啓修氏

1日目は、企業づくりや地域づくり、人材採用などをテーマに20の分科会に分かれて学びを深めました。2日目の記念講演では「地域に眠る“物語”を資源に変える！有馬温泉老舗宿15代目の感動の賑わいづくりとは!？」をテーマに、金井啓修氏（㈱御所坊・兵庫同友会）が報告しました。バブル崩壊や阪神淡路大震災など、様々なピンチを独自のアイデアでチャンスに変えてきた金井氏。夜店市など地域を巻き込んだ取り組みで、人が集まらなかった有馬温泉の一大観光地化を実現したことを、実践事例を交えて報告しました。その後の震災復興シンポジウムでは、パネリストとして田中信吾氏（日本ジャバラ㈱・兵庫同友会）、菊池逸夫氏（㈱キクチ・福島同友会）、コーディネーターとして佐竹隆幸氏（関西学院大学大学院教授）が登壇。同友会での学びを生かしリスク管理を行うことが、

地域になくてはならない企業づくりにつながるなど、活発な意見交換が行われました。

広浜泰久中同協会長は、過去最大の参加者数を動員した兵庫同友会への感謝の意を表し「我々中小企業の経営者が『地域再生の担い手』であるとの使命感を持ちながら同友会での学びを生かしてほしい」と2日間をまとめました。



第4分科会

中小企業振興基本条例を活かした地域づくりと制定後の課題 地域活性化と同友会の地域活動の事例

報告者 山口 寿氏（富田屋㈱・北海道同友会）
アドバイザー 大貝 健二氏（北海学園大学 准教授）

はじめに山口氏から、行政や他団体と連携しながら北海道別海町の条例を作成した課程と、その後の運用について報告がありました。運用面では、定期的に振興会議を行い指針の策定を行うことで、具体的な取り組みにつながったとのこと。続いて大貝氏から、条例を具体策に進めるための実態調査の必要性などが語られました。

山口氏、大貝氏は共に、行政の風通しが良いと条例づくりがスムーズに進むと話しました。一方で、数字としての成果はまだ無く、試行錯誤の中

で前に進んでいる、との意見が印象的でした。中小企業振興基本条例は「理念条例」という性質上、結果が目に見えるまでに時間がかかります。また、制定に至るまで、そして制定した後の運用においても様々な課題が出てきますが、やり続けることによってステップアップし、条例を活かした地域づくりにつながっていきます。そのためには、条例の必要性を発信し理解を広め、議会の採択を得ることも必要です。「条例は地域を良くし、自社が良くなることに繋がる」と皆が考え、共に良い会社づくりに取り組み、喜びを分かち合える社員を一人でも多く雇用することが大切であると感じました。「実行無ければ、前に進まない」と、最後に座長のまとめがあり、改めて「条例づくり」と「その後の運動」が重要だと認識できた分科会でした。

養 威頼氏（㈱アサギリ・富士宮支部）

第8分科会

ビジョン経営に基づく終身雇用と人材採用

雇用の規制緩和や非正規雇用の拡大にあらがう新卒採用

報告者 柳原 邦典氏 (㈱広島精機・広島同友会)
アドバイザー 前山 総一郎氏 (福山市立大学大学院 教授)

私は昨年、経営指針を創る会で新たな経営指針書を作成し、ビジョンを掲げて動き出しました。しかし、社員への理念の落とし込み方、人材育成はどうしていくのが良いのかという悩みがあり、そのヒントが得られるのではと考え、本分科会に参加しました。

柳原氏は、経営理念はもちろん、経営方針、10年ビジョンなどもキッチリつくり込んでおり、それをとにかく愚直に社員に伝え続けることが大切であるということでした。伝え方も特別なやり方があるかと思って聞いていたのですが、愚直に基本的なことをやり続けている、ということがとても印象的でした。また、柳原氏は労使見解に基づき「社員は最も信頼できるパートナー」「生涯つきあってもらう仲間」という意識を非常に強く持っています。そして、社員に対して理念やビジョンと共にその想いも伝え続けることが、終身雇用を前提とした安心して社員が働ける環境創りや、人材育成に繋がっているのだと感じました。

私が参加したグループのバズセッションでは「人を変えようとしても変わらない。しかし人は必ず変わる。人が変わる情報を与え続け、変わる環境を創っていくのが経営者の役割である」という発表者のまとめが心に響き、とても良い学びの時間となりました。

橋本 和幸氏 (バリュー・トーカイ㈱・静岡支部)

第13分科会

技術革新と中小企業

第4次産業革命への対応

報告者 蓮井 智哉氏 (経済産業省 産業構造課長)
藤田 功氏 (㈱マイクロソフト・東京同友会)

国と民間での第4次産業革命への取り組みとそれに対する警鐘、提案という報告であったと思いますが、私のようにIT業界とは縁遠い者にとっては、理解するのが大変な内容でした。初めて聞く単語が飛び交い、その情報量の多さに頭を痛め、何とか理解しようとしましたが、50%も理解できていないと思います。しかしながら、もし今回参加しなかったら、世の中が第4次産業革命であるという認識もなく、ただただ時代に流されるままだったと感じており、今後の課題を発見できたと思っています。AIやIoTは既に活用されており、革命はものすごいスピードで進んでいます。もはや大企業だけの課題でなく、中小零細企業にとっても、あつという間に仕事を失う危険があります。バズセッションの中では「ジタバタしてもしょうがない」「こういうことは、いつの世にもあったことだ」という意見もありましたが、常に最新の情報を取り入れる作業は必要であると感じています。それにしても、インターネットが普及して以降、世の中はとてつもない速さで変化しています。そのあまりの速さに戸惑いさえ覚えるのは、私だけでしょうか？

大戸 利之氏 (㈹大戸化成・静岡支部)

中同協社員教育委員会 2月28日(水) KPT新橋カンファレンスセンター



青山 達弘氏

大事なことは気づきと実践と伝わるということ

全国同友会の共育委員会メンバーが一堂に会し、共育ちや社員教育、委員会運営の課題等について議論し学びあう「中同協社員教育委員会」に参加しました。冒頭、委員長の梶谷俊介氏 (岡山トヨタ自動車㈱・岡山同友会) による報告のあと、2つのテーマでグループ討論を行いました。1つ目のテーマ「企業のあるべき『社員教育』とは」では、経営指針をリンクさせること、「教える」ということは気づきにまで至らなければ伝わらず、指針の発表をただだけでは伝わらない、ということでした。また、2つ目のテーマ「各同友会における現状と課題を踏まえ、どのように社員教育を進めていきますか」では、各地同友会とも委員会メンバーが揃わないのが現状の課題であり、結局のと

ころ会内に「教育=共育」の本質が伝えられていないのではないか、という意見が挙がりました。いずれも「伝える」「伝わる」がキーワードであり、課題の本質は同根であることに気付かされました。

グループ討論のまとめでは「単体ではなく他の委員会とつながる」「自社の教育プログラムに同友会のしくみを取り入れる」「パラダイムシフトの中、お互いの人生を含めた討論の場をつくる」「経営指針の実践を通じて社員と共に育っていく」「マナー研修より“何のために働くのか”から始める」など様々なヒントがありました。

今後も、静岡同友会の共育委員会でも上記のことを参考に、活動を運動にまでステップアップさせていきます。

青山 達弘氏 (㈱青山建材工業・県共育委員長)

連合静岡との懇談会

格差是正等を目指した各種要請を受ける



要請書を交わす中西氏(左)と井上氏

静岡県中小企業家同友会と連合静岡との懇談会が3月2日(金)同友会会議室にて開催され、連合静岡から中西清文会長をはじめ6名、静岡同友会から井上齊代表理事、河合浩史代表理事をはじめ4名、計10名が出席しました。連合静岡からの「2018春季生活闘争に係る要請」で

は、労働分配率や企業規模間格差、正規・非正規間格差、男女間格差などの是正を課題として挙げ、1. 法令順守を基本とした総労働時間短縮、2. 地域における定昇相当額(目安額)と年齢別ミニマム額の確保、3. 賃金改定、4. 公正な取引慣行の実現、5. 非正規労働者の処遇改善、以上に加えて、外国人技能実習制度の適正な実施に関しての要請がありました。

懇談会では、同友会の書籍「人を生かす経営～中小企業における労使関係の見解～」について井上氏から紹介した他、経営者・組合双方の事例紹介など、忌憚ない意見交換を行いました。

支部だより

中遠例会

「事業性評価」をテーマに 地域金融機関とバズセッション

2月22日(木) 磐田文化振興センター 参加28名



青木 啓祐氏

青木啓祐氏(東海財務局静岡財務事務所 理財課長)を講師に迎え「地域金融機関における金融仲介機能の発揮」をテーマに例会を開催しました。また、ゲストに中遠地区内の静岡銀行、清水銀行、浜松信用金庫、磐田

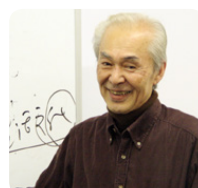
信用金庫、遠州信用金庫の支店融資担当者を招き、我々中小企業家は「事業性評価」をどのように捉えたらよいか、また金融機関から円滑な融資を得るためのポイントは何かを参加者全員で話し合いました。青木氏は講演の中で、今後の金融機関は経営者の個人保証や担保で評価するのではなく、地域密着を念頭に置いて企業の経営課題に積極的にかかわり、持続可能な事業性を評価した融資をしないと生き残れないということを説明。また、企業からみた金融機関の評価のポイントとして、自社事業への理解度や信頼関係、迅速な要望の対応などを紹介しました。その後、金融機関の融資担当者を交え5グループに分かれてバズセッションを行いました。グループ発表では「改めて事業性を評価してもらうための事業計画や経営指針書の大切さを理解した。それにより融資担当者との信頼を築くことが重要。金融機関と企業は良い意味でお互いを評価し合う関係であると良い」等の発表があり、初めての試みであった本例会が金融機関と経営者の対話のきっかけになったのではと思います。

大橋 徳久氏 (南大橋商事・中遠支部)

浜松例会

20世紀から21世紀の変化の中での 中小企業の未来!!

2月26日(月) エニシア浜松 参加33名



吉田 敬一氏

駒澤大学教授の吉田敬一氏をお招きしての講師例会を開催しました。吉田教授によれば、これまでの中小企業は「プロセスイノベーション」であったが、これからは「プロダクトイノベーション」を興していく必要がある、と

のこと。また、これからの中小企業は、1. なくなったらお客様が困る会社づくり、2. 財やサービスの機能性の高度化・多様化、3. 感性的・文化的付加価値の付与、4. 安心・安全のブランド、5. 担当者の人間的魅力、以上の5つが重要であることを、具体的な事例を交えてお話し頂きました。ある意味、私たちも少しずつこれらのことに気づき始めており、実践に移している企業も出てきましたが、さらに徹底的にやり続けることと、こだわりの追求が必要であることを改めて感じた次第です。吉田教授はその他にも、“よい経営者”に求められる使命感・先見性・決断力という要素と、自分に足りない要素に気付く為には本音で経営者同士が語り合う同友会の様な場所が必要、という話をしてくださいました。

今回の例会は10名のオブザーバーが参加し、そのうち2名の方から入会宣言を頂くこととなりました。支部全体が一致団結して企画運営ができ、非常に有意義な例会となりました。これからも会員同士による主体的な例会企画と運営で、浜松支部を一層活性化していきたいと思っています。

須山 由佳子氏 (南キャリア・アップ・浜松支部)

支部だより

伊東例会

経営指針の重要性を再確認

2月21日(水) ひぐらし会館 参加13名

「経営指針の成文化と実践」をテーマに三島支部長の三田宏一氏(南エムケイテクノ)が、会社の変遷や同友会での学びと実践について、自社と自身の年表も用いながら報告しました。



三田 宏一氏

震災の影響を受け自社事業への自信を喪失していた2011年、経営指針を創る会に入会。しばらくは「雇用を守らなければ」という想いが先行し、自社の軸が定まりません。しかし、経営指針を創る会の課題やグループ討論に取り組む中で、自分や自社を見つめ直す時間が生まれ、自社の軸や強みを見出してきました。2012年、売上は落ち込むものの、やっていることに間違いはないという確かな手ごたえを感じていました。2013年からはいよいよ結果が出始め、創る会で考えていたことが少しずつ現実となっていきました。現在は厳しい未来予想を覆すために、新たな経営計画の作成に取り組んでいる、とのことでした。

減多に自社を見つめ直すことのない私にとって、学びと気づきの多い例会でした。また、私も創る会に参加し、少しでも同友会の先輩が感じ、学んだことに共感し、自社の成長に繋がればと思えるようになりました。

渡邊 啓太氏 (ハッピーライフ・伊東支部)

三島例会

調剤薬局 そこにある危機 ～次世代薬局への挑戦～

2月26日(月) 三島商工会議所 参加29名



原田 雅也氏

例会報告が自身の経営に役立つという理由から、入会当初より報告を熱望していた原田雅也氏(南メディケア)が登壇。調剤薬局の置かれている現状から始まり、会社を始めるきっかけ、どういいう仕組みで薬局が成り立っているのか、そして現在、自身が考えている新店舗の構想を、細かく報告しました。調剤薬局は、国の方針により、医師の処方通りの調剤だけでなく、地域の「かかりつけ薬局」としての機能を求められるようになってきたとのこと。だからこそ、今の経営は順調でもあえて「今そこにある危機」と題し、自分の考えは正しいのか?皆さんだったらどうするのか?などテーマをはっきりさせた報告でした。グループ討論はその危機への対策を各グループで考えていくという形で、まさに誰もが抱える経営者の悩みと直結するもので、気付きも多く、参加者全員が学べる例会となりました。

同友会の仲間には、経営者の集まりだからこそ打ち明けられるし、様々な意見が聞けるし学べると、原田氏もこの発表を機に、同友会の魅力を再発見していました。

山下 直毅氏 (株サンアイ電工・三島支部)

御殿場例会

思いは固まった!そして次のステップへ

2月14日(水) エピ・スクエア 参加55名

経営理念部が担当した今月の例会で、部会員6名が作成した自社の経営理念を発表しました。今年初めて経営理念について触れる会員や、元々会社には理念があったものの自身でそれについて考えるのは初めてといった会員が多く、当初は戸惑うことが多かったかと思いますが、周りの会員からアドバイスを受けながら1年間かけて作成してきました。6名それぞれが社員への思い、地域やお客さんとのつながりの中で目指す企業の姿を言葉に落としこんだ経営理念を発表しました。



発表を聞いた後は、各自で10年ビジョンシートに取り組みました。10年ビジョンとは、理念をもとに10年後会社がどうなっていたいのか、自身や家族・従業員にどうなっていてほしいのかといった進みたい方向を示したものです。

新会員の発表を聞いて、参加者各々が経営理念をまとめた頃の新鮮な気持ちを思い出しながら取り組むことが出来たのではないかと思います。最後の梶氏による「経営指針をつくるのに遅すぎるといえることはない。同友会では指針作成の学びの場がたくさんある」というまとめの言葉の通り、来年度から形は変わりますが、今後も経営理念に関する勉強は続いていきます。

矢後 芳昭氏 (株御殿場地所・御殿場支部)

沼津例会

沼津支部 経営指針を創る会 発表会

2月21日(水) プラサヴェルデ 参加60名



沼津支部経営指針を創る会を受講した2名が報告しました。和田光雄氏(毎日牧場)は年々過熱する競争の激化に危機感を抱き、創る会に参加。その後、社員アンケートで自社の問題点を浮き彫りにし、解決に尽力しました。また、自社のルーツに立ち返り、その思いを盛り込んだメニューをスタッフと研究開発。「食べておいしいは当たり前が一番大事」をモットーに日々挑戦、前に進む決意の発表でした。浅田博彦氏(浅田博彦経営コンサルティングオフィス)は、クライアントに対する提案を日々行う中、SWOT分析によって理念、指針作りの「気付き」が得られると感じ、自身を見つめ直すため実践。導き出した答えは、製造業に特化した事業性評価、事業承継スペシャリストという、特定分野でのシェア獲得でした。やるべきことが見え不安が解消したという氏の発表は、悩める経営者に一筋の光明をもたらす「指針」となったように思います。

常に自身、そして自社と志を共にする仲間と経営指針を見つめ直し、更新していくことが同友会理念に沿った「よい会社」になる近道と感じました。

大神田 浩司氏 (株ヒッピーズ・沼津支部)

支部だより

富士例会

10年ビジョンを語ろう

2月15日(木) ロゼシアター 参加34名

東海林誠氏(ねじいち)が「ねじいち10年を振り返って、さらに10年」をテーマに報告しました。赤裸々な報告から、氏の実直で丁寧な人柄を強く感じることができました。



東海林 誠氏

「経営指針作成の手引き」をバイブルに同友会での学びを実践し、創業から10年間、順調に売上を伸ばしてきた東海林氏。お客様のお困りごとに対応することを常に心掛け、相談を受けたらアイデアを「ネジり出す」努力を惜しみません。その他にも、会社のことから自身のことまで「個人年表」としてエクセルに記録し自己管理する徹底ぶりや、マンダラチャートを利用した経営戦略の可視化、夜の9時に就寝し、自身の業務に集中できる午前3時から仕事を開始することなど、話を聞けば聞くほど、面倒なことから逃げてしまいがちな私は反省をし、少しでも東海林氏のような経営者に近づけるよう行動を見直したいと思いました。自社の10年後をテーマに行われたバズセッションでは、東海林氏のご子息も参加し、チャレンジし続けることが大切と学びを共有することができました。

西脇 明美氏(株)からだビューティ研究所・富士支部

志太例会

志太「つくる会」成果最終発表!

2月22日(木) 歩歩路 参加60名



志太支部では今年度の4月から支部版経営指針をつくる会を開催しています。今回はその修了生である大池盛一郎氏(南カーライフ静岡)、河原崎茂則氏(南かわでん)、小寺敬二氏(司法書士法人みらいふ)の3名が発表しました。決算書から、他人に言いにくい課題まで、すべてをさらけ出し、互いに意見しあう、つくる会。自社と自分を見つめ直した経営者が膝をつき合わせ、学びあい作った経営指針からは、発表者それぞれの想いが感じられました。また、10年ビジョンの発表では、将来を思い描きながら今後経営していく決意と、見つかった課題に対して、明確な問題意識を持ち立ち向かっていく意志を感じました。

質疑応答では、指針を既に成文化し実践している会員からも様々な意見がありました。「指針書の中に、びっくりするような大きな夢を描くことが大切」「指針ができれば、これからはそれをわかりやすくシンプルに磨いていくこと」など、指針成文化に取り組むきっかけとなるだけでなく、指針に基づく経営を実践している参加者の学びにも繋がる例会となりました。

山田 幹也氏(株)立花ガーデン・志太支部

静岡例会

入会10年で初めて語る 若杉幸秀を知っていますか?

2月13日(火) ベガサート 参加61名

若杉幸秀氏(南)ティーパワーが、生い立ちから会社を創業するまでの経緯、売上の変遷とそれに伴う心境の変化や会社での取組の変化、またその変化に影響を与えた同友会での学び等を報告しました。その後のバズセッションでは「主要取引先からの売上が半減し会社が危機的状況に陥った」という若杉氏の報告内容を受け「売上を担保するために何が必要ですか?~いまそこにある危機は何ですか?~」をテーマに各自の考えを深めました。各々が感じている危機には違いがありましたが、共通していたのは常に「怖い」という意識を持っているということでした。現状に安心することなく顧客や社会経済の変化を常に感じ取り、存在する危機に対して対策を講じることが重要であると学びました。



若杉 幸秀氏

若杉氏の報告の際、印象的であったのは、資料を用いずまっすぐに前を見て、出席者ひとりひとりに語りかけるような話し方でした。報告内容はもちろんのこと、話し方にも魅力溢れる卓話に会場全体が引きこまれた例会でした。

関 那積氏(株)中部特機設備・静岡支部

榛原例会

KPTセッションで人手不足問題解決??

2月15日(木) さざんか 参加45名

どの会社でも共通の課題となっている人手不足問題について、2名からの問題提起があり、その後「KPTセッション」という会議手法にてグループ討論を行いました。



「KPT」とは、「KEEP・PROBLEM・TRY」の略であり、テーマである人手不足問題について現在取り組んでいて成果のでているもの(KEEP)、上手くいっていないもの(PROBLEM)、これから取り組んでみたいこと(TRY)をそれぞれ、思いつくままに付箋に書き込みKPTごとに分けて貼付け、グループで共有し、問題解決へのアイデアを出し合っていくものです。最後のグループ発表では、社内コミュニケーションの改善、福利厚生充実など人手不足問題の解消のためには、まず今いる社員が生き生きと働ける会社をつくるということが重要であるという意見が多く出ました。いかにTRYを経営指針に落とし込み、KEEPに変えていくのか。シンプルな手順で問題解決について話し合う「KPTセッション」は、各企業での問題解決にも使えるような手法で、有意義な体験が出来たと思います。

中川 泰典氏(遠州工機(株)・榛原支部)

あきらめない心で新しい分野を開拓

(有)三和化学

代表取締役 横山 賢三氏 (榛原支部)

事業内容：プラスチック製品製造販売業 (サンキャップ (標示枕キャップ)、トマルル (切花輸送用バンド)、ケーフック、ロードキャップ、ティーピーカン (茶缶))

設立：1970年3月

社員数：10名

入会年月：1992年5月

所在地：牧之原市大寄476-2

TEL：0548-54-1221

URL：http://www.sanwakagaku.co.jp/

「世の中にないモノ」で全国シェア

農家に生まれ農業指導員だった横山賢三氏は、20歳の時、気の乗らない日々から抜け出そうと勤めていた会社を退職し、昼は農業、夜はプラスチック工場で働き始めました。25歳で農業の傍ら、成形機を一台購入し独立開業しますが、29歳のとき、オイルショックの影響で経営が行き詰まります。しかし、ここで一念発起。「世の中にないモノをつくろう!」と思いついたのが、ポリキャップでした。信用がなく不可能と思われた融資が実現したのをきっかけに、全国に三和化学の製品は波及しました。

経営危機の中、新分野での製品開発

道路などの公共物とともに歩んできた自社製品。し

かし政権交代による余波で、またもや経営危機。資金繰りに頭を悩ます中、展示会で医療向け製品をつくれなかと声をかけられ、開発を決意しました。しかしながらこの分野は品質に厳しく、開発は困難を極めました。改良に改良を重ねた末、横山氏が目指す「競合のいない製品」が完成しました。



横山 賢三氏 (右)

社員へと受け継がれる「あきらめない心」

「無人で稼働する工場の生産技術力は弊社の自慢」と話す横山氏。少量多品種・スピーディな対応力は、取引先から絶大な信頼を得ています。4年前より開発の現場にも社員が入るようになり、人が順調に育っています。また、働き方改革が叫ばれる昨今の中小企業にあって土日祝を休みとし、大企業並みの年間休日の中でも利益をあげています。幾度となく訪れた経営危機。横山氏の「あきらめない心」は社員へと受け継がれ、医療製品という大きな翼を広げ、世界へと羽ばたいています。「まだまだ夢の途中」と、お孫さんの描いた似顔絵を見ながら嬉しそうに話す横山氏が印象的でした。

取材・記事：塚本 文明氏 (TDC・榛原支部)

お客様と共に生きる「心の経営」を目指して!

江間企画

代表 江間 省豪氏 (浜松支部)

事業内容：ITコンサルティング、システム開発、パソコン環境設定・整備・点検・セキュリティ対策、操作個別指導等

創立：2010年9月

社員数：2名

入会年月：2016年6月

所在地：浜松市中区和地山3丁目1-7 Hi-Cube 317号室

TEL：053-424-5070

URL：http://www.emakikaku.com/

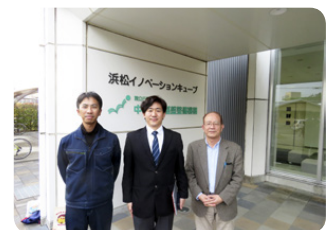
情報技術を通じて世間に貢献したい

「小規模企業にも情報技術 (IT) を導入してもらい、人為的ミスをなくし、経営者目線からの数値管理もしやすく効率化してほしい。そして、ハード面ソフト面両方の一貫したサポートで初歩的な事でも聞きやすい会社を作りたい」江間省豪氏はそんな思いから、20年勤めた会社を退職し、40歳で江間企画を立ち上げました。しかし順風満帆な船出とはいかず、当初は自宅で作業を行い、時には図書館でパソコンをひろげ作業をする日々もあったとのこと。3年目位から中小企業ならではのフットワークの軽さで信頼の芽が出始め、5年目から軌道に乗り始めました。

同友会活動と社員との関わり

同友会には2016年に入会。会について江間氏は「バズ

セッションで異業種の方と様々な話し合いができることを喜びに感じる。自己アピールの場にもなり常に新鮮」と語ってくれました。また、社員について訊くと「自主性に任せている部分が大きい」との



江間 省豪氏 (中央)

こと。しかし、常に自分が態度で示さなければという思いから、毎日朝礼を行い、問題を共有し解決方法を話し合っています。コミュニケーションが良好すぎて、盛り上がりすぎてしまうこともあるそうです。

人との出会いで変わる未来

江間氏はかつて行き詰ったとき、自分の価値を分かってくれる仲間との出会いが解決に繋がった、と経験を話してくれました。また、データベースについては「生涯サポート」だと語り、お客様と業務の改善や効率化などを詰めながらより良いシステムを作り上げ、更に心の距離も縮めていくことを心掛けています。現在は信頼を強固なものにするため、2018年5月の法人化を目標に動いています。「これからも、お客様が困っていることを解決し、満足感と感動を提供する心の経営を大切にしたい」と笑顔で話してくれたのがとても印象的でした。

取材・記事：秋山 英正氏 (浜松資材株・浜松支部)

取材：杉本 敏雄氏 (有浜名システム・浜松支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1105名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
かつまた 勝又 幸雄	(株)東静岡総合保険サービス 保険代理店 (損害保険、生命保険)	御殿場	杉山 正英
はやさか 早坂 悠	朝日生命保険(相)御殿場営業所 生命保険 (個人・企業向け生命保険・損害保険商品の販売)	御殿場	勝又 薫
おおいし 大西 佳久	大西鐵構(株) 建築工作図 (鉄骨部分の工作図等の製図)	沼津	辻本 光裕
おおの 大野 佳章	(有)あんしんライフ富士 保険代理店業 (損害保険・生命保険)	沼津	高野 康一
ながく 永久保真生	(株)永真 不動産業務全般、リフォーム業務、設備工事、美装他 (不動産売買・賃貸・仲介・管理・内装・外装・外構・造作・設備機材設置などのリフォーム業務、電気・空調・給排水設備工事、ハウスクリーニング・リサイクル・片付けなど)	沼津	辻本 光裕
ほった 堀田 久美	Women's Health NAO 健康産業 (出産・母乳ケア・育児相談、物品の販売、運動クラスの開催、子育てクラス開催)	富士	小川 友代
さとう 佐藤 寛之	(株)冷空サービス 空調サービス業 (空調設備工事、メンテナンス工事)	富士宮	金子 佳正

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
このぎ 外木 昌宏	(株)富士一商会 卸売業 (自転車・オートバイ部品・タイヤの卸売)	富士宮	太田 誠
たかぎ 高木 一旭	(有)清水機工サービス 管工事業、鋼構造物工事業 (各種タンク及び槽類・架台構造物、各種配管工事・保湿工事、ボイラ清缶工事及び設置工事、SS・SUS製缶設計・製作)	静岡	大和多宏明
みうら 三浦 直哉	PIZZERIA&BAR SERENO 飲食業 (イタリアンを中心とした料理及びアルコールの提供)	静岡	浅原 聡子
おおせき 大関 泉	(株)ジー・ディー・エス 飲食業 (炭火焼肉「牛角」エリアFC本部 (静岡県・甲信越エリア)、居酒屋「かまどか」エリアFC本部 (静岡県・甲信越エリア)、飲食事業コンサルティング)	浜松	山崎 昌彦
はやしもと 林本 書画	(株)ふれあいの里観月園 老人介護事業 (居宅支援事業所、通所介護施設)	浜松	須山由佳子
みやじ 宮司 智代	イー・サポート 情報サービス業 (アウトソーシング、HP製作、システム構築)	浜松	須山由佳子

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

第15期 同友会大学

第五講

大規模災害リスクへの対応

2月3日(土) 静岡同友会 会議室

講師：原田 賢治氏 (静岡大学防災総合センター) 准教授
中村 譲治氏 (静岡大学教育研究支援員)



原田 賢治氏、中村 譲治氏

冒頭、原田賢治氏による予想される大規模災害の規模や想定被害等の話に続き、中村譲治氏による「リスク回避と事業継続計画 (BCP)」の講義と演習が行われました。

東海・東南海・南海地震は最悪の場合、連動して太平洋岸全域に広がる恐れがあります。その場合には、東日本大震災よりはるかに広域で長期間被害に晒され救援が追いつかないことが予想されます。その間を自力で生き延び事業継続を図るためには事前の準備が不可欠だと痛感しました。

また、いくら準備してもリスクを完全に回避できるものではないと認識し、リスクを事前に想定して「想定外」を減らしておくことが、冷静な判断力を生み被害を最小

限にし得る最善の策だと学びました。

グループ討論では、各社の事情や取り組みの違い等から沢山の気づきがありました。大きな対策だけでなく、例えば薬は数日分携帯する、車の燃料補給や携帯充電はなるべくこまめにしておく等、簡単に出来ることが多くあることがわかりました。

過去に国内で発生した震災では、地元の中小企業が活躍しました。我々も「いつか来る大震災」を生き延びるだけでなく、地域の為に活躍できるようにBCPに取り組みましょう。

鈴木 雅夫氏 (株)ハチマル・榛原支部

静岡県中小企業家同友会会費

口座振替のお知らせ

口座振替日/平成30年4月6日(金)
振替会費/平成30年度上期会費
(平成30年4月~平成30年9月)
振替額/支部既定の通り

左記の通り、会費をご指定の口座から振替させていただきますので、ご確認をお願い致します。

なお、領収については、通帳への記帳をもって代えさせていただきます。

納入代行会社は「SMBCファイナンスサービス(株)」通帳印字は「SMBC(ドウユウカイ)」名で引き落としされますのでご注意ください。



静岡同友会 Facebook ページで、会員企業訪問の様子や各支部例会の案内を掲載しています。ぜひご覧ください!

同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。